

アカデミーかわら版



柴田是真「昔噺桃太郎」より構成

🌸2022年度第31回開講式—4月6日（水）開催！！

第31回開講式が、昨年に引き続き、川崎市生涯学習プラザ401会議室を会場として、オンライン併用で開催され、新型コロナ禍にもかかわらず、新規受講生をはじめとする多くの受講生（会場36名、オンライン26名）が参加しました。来賓として伊藤 弘川崎市副市長、小田嶋 満教育長をはじめ多くの方々にもご出席いただきました。

第1部開講式では、まず太田猛彦学長から、ウクライナ問題を例に、社会がどう動いていくかを考えることの重要性を、開学時に学長も務められた篠原先生の「自立した市民を作る」という理念を引用されて話されました。さらに、学ぶことで健康や友達作りなど、より充実した生活の役立てることができるかと挨拶されました。



太田学長

藤嶋昭理事長からは、アカデミーが来年で開学以来30年になること、アカデミーの素晴らしさ、さらには江戸時代の儒学者佐藤一斎の「少にして学べば、即ち壮にして為すことあり。壮にして学べば、即ち老いて衰えず。老いて学べば、即ち死して朽ちず」を引用し、アカデミーで学ぶことの意義についてお話がありました。



藤嶋理事長

岩瀬正人川崎市生涯学習財団常務理事は、アカデミーの運営がNPO法人かわさき市民アカデミーと二人三脚で行って



岩瀬常務理事

いること、地域協働講座等の取組についてお話がありました。

最後に、伊藤弘川崎市副市長は、アカデミーが唯一無二の市民大学として川崎市・川崎市民の大きな誇りであり財産であること、デジタル化の中でかわさき市民アカデミーの生涯学習が日本さらには世界につながっていくことの期待を述べられ、来賓のお祝いのことばとされました。

その後、第2部記念講演（右のコラム）、第3部受講に当たってのオリエンテーションが行われました。




記念講演・佐藤年緒先生
 （日本科学技術ジャーナリスト会議 理事）
「水といのちのふるさと探し」

2022年春のニュースから講演を始められ、「先が見えない社会で、どのような希望をつくりだすか」という課題について「ふるさと探し」をテーマに講演されました。

川崎市に縁の深い多摩川について3冊の本から話され、東日本大震災の被災地の詩を紹介されるなど、幅広い内容でした。

最後に多彩なメニュー、様々に選べる「かわさき市民総合大学」としてのアカデミーで学ぶ楽しみについて語られました。



伊藤副市長



NPO 法人かわさき市民アカデミー

5月24日(火) 14時～「総会」が開催されます

アカデミーの最高意志決定機関となる総会です。皆さまのご参加をお待ちいたしてしております。 ・会場 川崎市生涯学習プラザ301会議室



NPO正会員・賛助会員募集 アカデミーの活動の充実と発展は、皆さまのご協力とご理解が必要です。入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

申込み・問い合わせ先 NPO 法人かわさき市民アカデミー事務局

☎044-733-5590 Fax 044-722-5761

報告 1

代表世話人会議を開催（2月7日）しました

2月7日に、21年度後期運営代表世話人会議が会場・オンライン（以下OL）併用で開催され、世話人・役員・事務局、学長を含め約40名が参加しました。第I部ではNPOから、①今年度通期で延べ受講生数が2割減少したが、印刷費など経費減も図られ赤字決算回避の見込みであること（総務部会から）。②22年度前期の定員・OL併用の方針、申込のない入室者への対応、アンケート結果でOL受講未経験者の20%、経験者の30%がコロナ禍収束後もOL受講を希望していること（事業推進部会から）。③マスメディア・ロコミ活用、かわら版による講座紹介、離れていった受講生への働きかけ等の広報活動（広報・地域連携部会から）などの報告がありました。またOL特別公開講座（川崎市委嘱事業）、東京応化科学技術振興財団助成事業（出版）、受講生のつどい（修了生と一部先生は2年ぶりに対面で開催）が紹介されました。

第II部（会場とZoomのブレイクアウトルームでのグループ討論）では、共通して、世話人の確保が大きな課題であることが確認されました。また、受講生減への対応（社会の動きを見込む、講師の条件、広報のアイデア）、今後のOL講座（OLのみの講座、人員・環境への投資）、アカデミーの経営などについて意見が出され、野外講座など各講座・WSの悩みも共有しました。NPOとしての原点に戻り、お互いに協力しながらどのような解決策をとれるか、今後とも検討していきたいと思っております。[事業推進部会]

報告 2

2022年2月理事会（2/22）および3月理事会（3/29）

1) 主な審議事項

- 通信環境の改善を目的としてシステムを整備します。
- 22年度前期講座・WSの担当理事が決まりました。

2) 主な報告事項

- 22年度前期受講申込状況
- 後期運営代表世話人会議（2/7）について
- 野外講座での休講の連絡方法としてSMSの活用



音楽評論家 丹羽正明が語る
「音楽批評家の仕事」
 …1955～2022年の回顧…

丹羽正明先生ご略歴
 1932年生。東京大学文学部(音楽美学専攻)卒。東京音楽大学教授。読売新聞文化部嘱託、音楽批評欄担当(41年間)。「那須野が原ハーモニホール(栃木県大田原市)」館長(17年半)。音楽コンクール「コンセル・マロエ21」審査員長(20年間)。NHKラジオ・テレビ、NTV、FM東京等の音楽番組に出演。助成財団役員・選考委員等。

●第1回:6月2日(木)14時～15時30分
 学習内容:「音楽批評家の仕事」

●第2回:6月30日(木)14時～15時30分
 学習内容:「コンサートを巡って」

会場:新百合21ビル地下2階多目的ホール 受講料:各回 1,500円

…詳細は個別チラシやアカデミーのホームページをご覧ください…

哀悼



林勝彦先生は、1月14日急逝されました。（79歳のお誕生日を目前にしての突然の訃報でした。）2014年後期からカリキュラム企画・編成委員に就かれ、映像・メディアのコーディネーターとしてその企画力を遺憾なく発揮されました。感謝の気持ちとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

先生との思い出

林先生とのお付き合いは、映像・メディアの世話人をするようになってからの約3年間でした。

先生は、飲みながらお話しすることが大好きで、コロナ禍前迄は、世話人の反省会（飲み会）にもよく参加して下さいました。

ある日の飲み会で、突然に「来期は誰がいいか」と問われ、咄嗟に「三浦瑠麗先生」と答えると「どんなところがいいのか」と質問され、しどろもどろに答え終えると、他の方々にも同じ質問をされていました。後日、来期のスケジュールが決まったとの連絡があり、そこには「三浦瑠麗先生」の名前があり、嬉しかったことを思い出します。

林先生はアカデミーの事を常に思い、対応して下さいたことに、感謝致します。

林先生のご冥福をお祈り申し上げます。

（映像・メディア講座世話人 石原雅史）

先生との思い出

林先生急逝の報に接し、何かの間違いだろうと、明日になれば「古田さん、昨日はごめん、

いや～参ったよ」と電話が来る気がして

いました。しかしその後のアカデミーからの連絡は、私の予想を悉く裏切る結果となりました。林先生との思い出は沢山あり過ぎて到底語り尽くせませんが、201での凜とした立ち姿、開講時刻が迫る中、西山

さんを巻き込んでの資料作り、決して断ることの無かったお酒の席、が特に頭に浮かんでいます。講座を乗り多き内容 するため努力を惜しま

ず、我々世話人の意見も一人ひとり、熱心に耳を傾けてくれました。お酒の席では、先生を囲み映画・政治・医療等、数え切れないテーマに沢山の花が咲

きました。先生は目を輝かせて本当に楽し

そうでした。今頃、天国で美味しいお酒を堪能していると、心から祈ります。もう二度と先生とお目にかかれませんが、「古田さ～ん、林勝彦です」と電話がかかってくる気が・・・未だにしています。合掌

（映像・メディア講座元世話人 古田真由美）

ありがとう
林勝彦先生



再掲

（林先生から2020年1月号
にご寄稿頂いたものです）

「映像・メディア～受講生・事務局・理事に支えられて～」

映像・メディア講座 林 勝彦

「映像・メディア」講座のカリキュラム委員になって5年経ちました。初めて、かわさき市民アカデミーを訪れた時、守田理事から、「32人の受講生数を増やして欲しい」といわれたのが印象的でした。直後に開かれた委員会で、大田学長から「企画は何ですか?」、一瞬頭は真っ白。

しかし、NHKでの提案会議では、常に「Something New」が問われます。何が新しいのか? 思いついたのが、NHK特集「シルクロード」。12本並べた生涯教育は皆無のはず。では、タイトルは? 知的好奇心にあふれる年配の方たちの顔が浮かび、「懐かしの名作を語る」。こうして講座はスタートしました。初回の受講生は67人。以後、72人の応募×切のうち2017年後期から5期連続で抽選に。19年度後期は、41人が受講出来ない程の人気講座の一つになりました。アカデミーの講座が、30年の伝統を誇り、質の高い内容を維持している核心は、優秀な先生方を始め、気持ちの良い事務局の皆さんと理事に加え、他社の生涯学習講座には無い代表世話人らが自ら講座を創造してゆく志とアイデアの賜物だと感謝しています。

第14回受講生のつどいオンライン併用で開催(3月9日)

3年ぶりの受講生のつどいは、オンライン併用の新しいスタイルで開催しました。148名の修了生の内50名に一般受講生も参加し、第1部修了式が行われました。続く第2部は文梨衛(ふみなし)もるトリオのジャズライブ。オンラインに慣れてきた受講生、先生にとってはライブのすばらしさを再認識する場にもなりました。

第3部の交流会でお願いした先生方のスピーチはまるで連続ミニ講座のように魅力的なものでした。この後、文梨さんにも出題と解答をお願いしたクイズタイムを楽しみ、つどいは終了しました。



SDGs 講演会『オミクロンは「終わりの始まり」か』(2月19日)



(公財)東京応化科学技術振興財団「研究交流促進助成」事業のSDGs講演会『オミクロンは「終わりの始まり」か』はZoomウェビナーにより、308名が参加・視聴して開催されました。藤嶋 昭理事長は開会のあいさつで黒木先生の著書を手で紹介されました。

講師の東京大学名誉教授・元岐阜大学学長 黒木登志夫先生は豊富なデータを駆使され、平明な表現で話してくださいました。DNAの二重らせん構造における黒木登志夫先生 突然変異を話されたときには、わかりやすい例えとしてマイク真木の「バラが咲いた」の歌詞が3字ずつで区切れることに着目され、“点突然変異”と“フレームシフト変異”を説明されるなどユーモアを取り入れながらのわかりやすいお話に引き込まれました。

太田 猛彦学長の終わりのあいさつでは質問を織り交ぜながらそれぞれの専門領域をベースにしたやり取りをしてくださり、充実した講演会の幕を閉じました。

なお、この講演会は現在ホームページ(YouTube)で公開されています。

編集後記

年明けとともにオミクロン株という第6波に襲われたものの、受講生の皆様や関係者のご協力により無事に21年度後期を終了することができました。ありがとうございました。

3年ぶりの「受講生のつどい」は、オンライン併用という新しいスタイルで開催できました。4月6日には22年度の開講式を挙行し、前期の講座・WSが始まりました。

これからも、アカデミーの講座や行事に関係した興味深い記事をお届けします。 N.I.

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習プラザ 3F

電話 044-733-5590 FAX 044-722-5761

問合せメールアドレス

info@npocademy.jp/

<http://npocademy.jp/>

HPは
こちら

